

# ふるさと応援団木島平会会報

## 5月8日 幻の滝「樽滝」の落水

5月8日、1年に1度その姿を現すことから、「幻の滝」と言われている「樽滝」の落水が行われました。好天気だったという事もあり2千人程の観光客で賑わっていました。午前8時30分からの落水に合わせ、早い人では明け方から場所取りをするカメラマンもおお、その人気度がうかがえました。

当日は、糠千分館で「そば祭り」、柳久保の木島平村観光交流センターでも、「たかやしろ振興会春のイベント」が開催され、いずれも多く観光客で賑わっていました。

「樽滝」とは、樽川上流の不動明王をまつ



→ 糠千そば祭りの様子

る神社の下段に位置する二つの滝「雄滝」と「雌滝」をあわせた総称です。戦前までは5月8日にこの滝を見るため近隣から多くの人が集まり、すぐそばにある不動明王にお参りをするという村民憩いの場でありました。

しかし、水力発電所ができ、その余水を時折崖の上段から落したことからできたこの「幻の滝」が「樽滝」として知られるようになりました。



その後の昭和35年に、藤沢正平氏を中心に下高井地域調査委員会の方々によってなされた、カヤの平の報告も在り、その調査資料は公表されてもいますが、その内容はカヤの平の自然は、村だけでなくわが国にとっても如何に貴重で大切な価値あるものであるかを示しています。

先の5月8日は樽滝の放流も在りましたが、この川水もカヤの平のドブ平からのものです。

これからの山野を歩いていて、まず目を引き付けるのは、やはり美しい花や蝶などの昆虫であります。そしてさわやかな野鳥の鳴き声は耳を楽ませてください。映画「阿弥陀堂物語」然り、木島平村はそんな自然を沢山残してくれています。

先の東日本大震災を想うに、格別に思われるこの頃です。

【写真】 当時の調査の様子と牧場

入り口で左から山田さんと池田さんの牧使達



## カヤの平牧場の思い出

さいたま市 小林 莊志

高標山という木島平村では一番高い山が北東の志賀高原よりにある。その東麓カヤの平高原が広がっている。

山麓に周囲の水を集めた沼澤（北ドブ）があり、春は水芭蕉、夏はニッコウキスゲ、ヤナギランなどの群落、ヒメギフチョウをはじめ珍しい動植物に恵まれて、観光に、学術研究にと来訪者を喜ばせています。また牧場として、牛や羊などの放牧に利用されて、景観美と共に人の心を癒してくれています。

今は昭和53年に開通した奥志賀スノーパーク林道が、カヤの平から切明方面や志賀の蓮池方面、上の平から野沢温泉方面に通ずる観光道路として便利になっています。

この牧場についての思い出があります。三村合併の間もない昭和32年8月に、村から3千円の予算で、牧場として適地であるかの確認のため、下高井農林高校に調査依頼が在り、当時在学中の私達生物研究クラブで現地の植物相、気候ほか環境等について、総勢男女11名が2泊3日の日程で現地にテントを張り、調査したのです。

1mの枠内の動植物を何カ所も、また、水辺動植物も調べたのですが、ブヨややぶ蚊に襲われ苦労したイヤな思い出と、雑魚川での痩せたイワナは餌無しの釣り毛針に入れ食いで、何十匹も捕れた思い出が在ります。

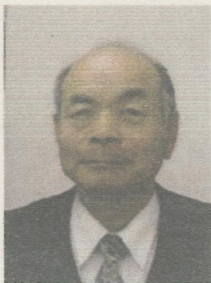


## 災害から思うこと

狭山市 大澤 進

3月11日に東日本を襲った大地震、そして大津波、原発事故、さらには北信濃を襲った大地震などによる被害は甚大なものとなっています。多くの被災者の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

連日のテレビ報道に釘付けになるとともに、被災された皆さんへの募金活動や被災地への救援物資を輸送する運動などで奔走している毎日です。原子炉事故も憂慮すべき事態が続いていますが、一日も早い収束と国民的規模での復興支援が求められています。



今回の大災害を経験して、防災や安全に対する意識はもろろん、価値観や社会構造、日本経済、政治や地方自治体のあり方などを含め、大きな変化がおこるのではないのでしょうか。改めて災害から命と暮らしを守るうえで、共助、公助の組織としての部落や村など、コミュニティの役割とその重要性も再認識されています。原子力発電に依存した「大量生産大量消費型社会」「24時間型社会」などを見直し、自然エネルギーの活用によって電力を確保し、低エネルギー社会の実現をめざすことが求められているように思います。

## 総会・交流会の開催せまる

ふるさと応援団木島平会の総会・交流会が間近となりました。参加を予定されていて、まだ申し込みをされていない方は、早急に返信ハガキをご投函ください。

【期日】 6月11日（土） 午後5時から

【場所】 ホテル パノラマランド木島平